

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3122811号

(U3122811)

(45) 発行日 平成18年6月29日(2006.6.29)

(24) 登録日 平成18年6月7日(2006.6.7)

(51) Int.Cl.

A47C 19/12 (2006.01)

F I

A47C 19/12

Z

A47C 19/12

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2006-575 (U2006-575)
 (22) 出願日 平成18年1月4日(2006.1.4)

(73) 実用新案権者 505350411
 気谷 昭広
 東京都世田谷区桜 3-27-10
 (72) 考案者 気谷 昭広
 東京都世田谷区桜 3-27-10

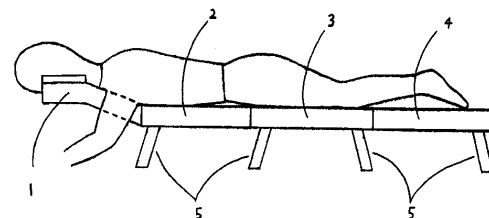
(54) 【考案の名称】 リクライニング式座椅子・リクライニング式チェアーベッド・うつ伏せ用ベッドとして用いることを可能にした座椅子・チェアー・ベッド。

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 リクライニング式座椅子・リクライニング式チェアーベッド・うつ伏せ用ベッドとして用いることを可能にした座椅子・チェアー・ベッドを提供する。

【解決手段】 リクライニング式座椅子のすわる部分を足の方向へ2倍に延長し(延長した部分はずれずかつ折りたたみ可能にする)、背もたれ部分にうつ伏せの姿勢で顔をのせ腕を通すための突起をつけ、すわる部分・延長部分・背もたれ部分にそれぞれ折りたたみ式の足をつけることによって、リクライニング式座椅子・リクライニング式チェアーベッド・うつ伏せ用ベッドとして用いることを可能にする。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

リクライニング式座椅子のすわる部分を足の方向へ 2 倍に延長し（延長した部分ははずれずかつ折りたたみ可能にする）、背もたれ部分にうつ伏せの姿勢で顔をのせ腕を通すための突起をつけ、すわる部分・延長部分・背もたれ部分にそれぞれ折りたたみ式の足をつけることによって、リクライニング式座椅子・リクライニング式チェアーベッド・うつ伏せ用ベッドとして用いることを可能にした座椅子・チェアー・ベッド。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、リクライニング式座椅子のすわる部分を足の方向へ 2 倍に延長し（延長した部分ははずれずかつ折りたたみ可能にする）、背もたれ部分にうつ伏せの姿勢で顔をのせ腕を通すための突起をつけ、すわる部分・延長部分・背もたれ部分にそれぞれ折りたたみ式の足をつけることによって、リクライニング式座椅子・リクライニング式チェアーベッド・うつ伏せ用ベッドとして用いることを可能にした座椅子・チェアー・ベッドに関するものである。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0002】

背骨・腰・骨盤等に最も負担をかけない姿勢は、寝転んだ姿勢であるといえる。しかしあお向けの姿勢では、本や新聞をもつ手や腕がすぐに疲れてきてしまい、またぶれるために眼に負担がかかり、更に字を書くことは不可能に近い。うつ伏せの姿勢では、ひじを張って胸を大きくそらせる必要があり、ひじや胸に負担がかかり、また本や新聞からの距離があまりとれないため、近眼になりやすく、また老眼になると読みづらくなる。字を書く時は、体を傾けたり手や腕を動かしたりする必要があるため、ひじや胸や眼に更に負担をかけることになる。うつ伏せの姿勢で、ひじを張ったり胸を大きくそらせたりすることなく、また体をあまり傾けたり動かしたりすることなく、更に眼からの距離を適切にとりつつ本や新聞を読んだり字を書いたりできるようなベッドが望まれる。また、うつ伏せだけでなく、より多くの姿勢で本や新聞を読むことができれば更に望ましい。

【課題を解決するための手段】

【0003】

リクライニング式座椅子のすわる部分を足の方向へ 2 倍に延長し（延長した部分ははずれずかつ折りたたみ可能にする）、背もたれ部分にうつ伏せの姿勢で顔をのせ腕を通すための突起をつけ、すわる部分・延長部分・背もたれ部分にそれぞれ折りたたみ式の足をつける（それぞれ 4 本・2 本・2 本の足をつける）。

【考案の効果】

【0004】

うつ伏せ用ベッドとして、うつ伏せの姿勢をとりつつ、ひじを張ったり胸を大きくそらせたりすることなく、また体をあまり傾けたり動かしたりすることなく、更に眼からの距離を適切にとりつつ、楽に本や新聞を読んだり字を書いたりすることができる。また、リクライニング式座椅子やリクライニング式チェアーベッドとして、様々な床に座った姿勢や様々な腰掛けた姿勢をとることができるため、その意味でも体や眼に負担をかけることなく、楽に本や新聞を読むことができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0005】

顔をのせる部分は、図 3 のように上への膨らみと傾斜をつけて顔との接触面積を大きくし、なるべく圧迫感や痛みがないようにする。折りたたみ式の足の長さは、介護用の椅子等に見られるような形で調節可能であることが望ましい。肘掛部分があってもよい。リクライニングは 4 段階以上が望ましい。

【図面の簡単な説明】

10

20

30

40

50

【0006】

【図1】 ベッドを横から見た図

【図2】 ベッドを上から見た図

【図3】 うつ伏せの姿勢で顔をのせる部分の横断面図

【図4】 チェアーベッドを横から見た図

【図5】 座椅子を横から見た図

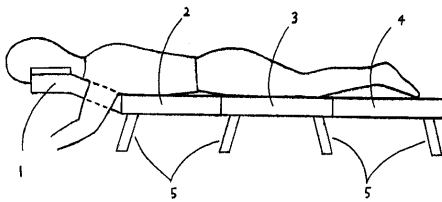
【符号の説明】

【0007】

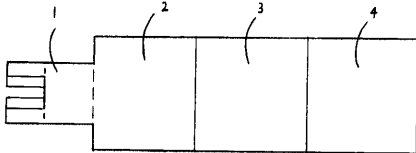
- 1、顔をのせ腕を通すための突起
- 2、リクライニング式座椅子の背もたれ部分
- 3、リクライニング式座椅子のすわる部分
- 4、リクライニング式座椅子のすわる部分を足の方へ延長した部分
- 5、折りたたみ式の足

10

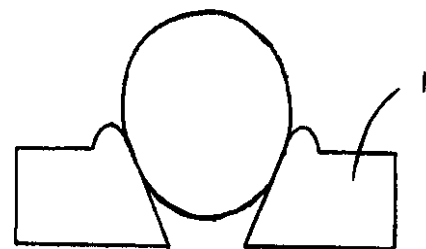
【図1】



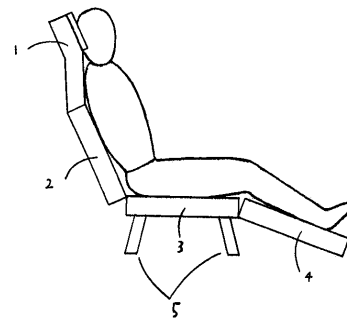
【図2】



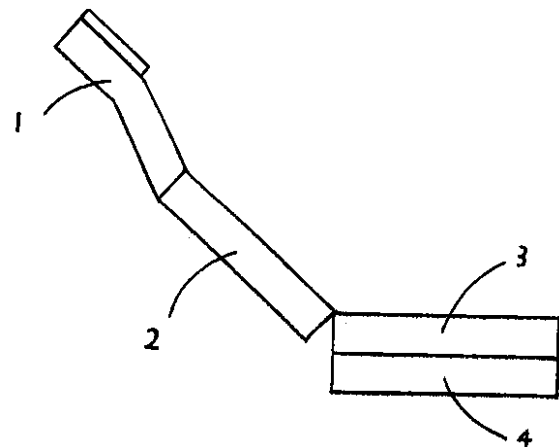
【図3】



【図4】



【図5】



【手続補正書】

【提出日】平成18年3月17日(2006.3.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

リクライニング式座椅子のすわる部分を足の方向へ2倍に延長し、延長した部分ははずれずかつ折りたたみ可能にし、また、背もたれ部分にうつ伏せの姿勢で顔をのせ腕を通すための突起をつけ、更に、すわる部分・延長部分・背もたれ部分にそれぞれ折りたたみ式の足をつけることによって、リクライニング式座椅子・リクライニング式チェアーベッド・うつ伏せ用ベッドとして用いることを可能にした座椅子・チェアー・ベッド。